



OKAYA 岡谷ロータリークラブ

- 会長／中畑隆一
- 副会長／小口泰史・原 史郎
- 幹事／佐藤有司
- 会報委員長／北澤洋之介

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F・Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939
URL: <http://okayarc.org>・E-mail: okayarc@bz04.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2648 回例会 2014 年（平成 26 年）1 月 21 日(火)

- 点 鐘：中畑 隆一 司 会：林 靖高
齊 唱：それこそロータリー ラッキーNo：No. 6 井上保子
唱 和：四つのテスト
皆 勤 祝：小口哲男 42 年・杉田隆夫 36 年・宮澤由己 18 年・矢島 進 18 年
牛山幸一 13 年・井上保子 9 年・薩摩 建 1 年
誕 生 祝：山岡正邦・杉田隆夫・大橋正明・小口泰史
中村文明・原 史郎・中嶋孝一・林 尚孝
結 婚 祝：林広一郎・梅垣和彦
表彰：ロータリー財団寄付
MPHF 4 回矢島 進、1 回牛山幸一、太田博久、瀬戸雅三
表彰：米山記念奨学会寄付
功労者 6 回濱 俊弘、5 回宮坂 伸、宮澤由己、4 回中畑隆一、山岸邦太郎
2 回中嶋孝一、林 尚孝、原 史郎、1 回林広一郎、濱 毅、山崎典夫



誕生祝

会長挨拶

1 月は RI のロータリー理解推進月間です。会員がロータリーについて知識と理解を一層深めてもらい、同時にロータリアン以外の地域の一般市民の皆さまにもロータリーについて良く知ってもらうことを目的とした月間とされています。

どこのクラブでも退会防止に努めていますが、退会される原因の 1 つにはこの理解不足が上げられています。ロータリーの基礎知識を身につけることは新会員のみならず会員すべてが必要不可欠と言われます。

私も知識不足と理解不足のままここまで来ましたが、下半期に向け精一杯がんばって努めたいと思います。よろしくお祈りいたします。

会長報告

- ・ 平沢清文会員のご母堂様がお亡くなりになられ、会長・幹事でご葬儀に参列させていただきました。ご冥福をお祈りいたします。また、ご遺志金を頂きましたのでご報告いたします。

委員会報告

国際奉仕委員会 埴里 RC より 2 月 18 日に来訪されるとの連絡が入りました。詳細につきましてはこれから決めていきますが、当日は夜間例会に変更になる場合もありますのでご承知おきください、よろしく申し上げます。

挨拶 平沢清文会員

母の葬儀に際しましては大勢の皆さんにご弔問いただきありがとうございました。また、クラブからもご弔意を頂き重ねて御礼申し上げます。94 歳でしたが、急に亡くなりましたので、少しは看病してあげたかったなと思っています。ありがとうございました。



卓 話 「マスコミ活用について」

薩摩 建 会員

1. 市民新聞の在り方

戦後の混乱状態の時代、それぞれ主義主張、批判を並べ立てる新聞が多かった。岡谷の復興のために何ができるのかと考える中で、配給の情報を始め、目の前の身近な情報を提供するものとして始めた。

発行地域の発展への貢献のため、として市民新聞を作り上げてきた。

そのスタイルは、今も定着し、7 市町村にそれぞれ 7 つの新聞。全国面を持たない、地域密着、地元の情報に特化する新聞。というかたちをぶれずに貫いてきたことが、市民新聞のいしずえとなっている。

ニュースの掲載が遅いと言われることも多いが、通常の新新聞は次の日に載らなければ、捨てられる情報も多いなかで、遅れてしまっても、取材した物はできる限り載せる。という方針で、少しでも多くの地域の情報を送り出している。

理念

- ・地域に根ざし、地域と共に育ち続ける
- ・社員の幸せ、市民の幸せを追求し続ける

2. 新聞の考え方・地域紙の考え方

全国紙も、地域紙も共通しているのは、

「ニュース性」 読者にとって知りたい情報なのか、必要な情報なのか

「公共性」 世間一般に知らせるべき情報なのか

- ・ 同じ内容、似た内容を短期間で繰り返しては載せられない。
- ・ 定期的に行われて、代わり映えのないものも取材しにくい。
- ・ 会員対象だけの催しは、話題性のある内容でなければ、載せにくい。

3. 取り上げられやすい方法は？

- ・ 同じ催しでも、切り口を変えることで新聞として書きやすくなる。
- ・ 一般も参加可能と門戸を開く形で、講演会など開くと取材しやすい。
- ・ さらに後援を取る。

→公共性のあるもの、営利が表立ちすぎている。

法律すれすれのようなものではない。であれば後援を断ることはまずない。

- ・ 広告を出す。

他の新聞は、細かいところまで分からないので

市民新聞に特化した話をすると、基本的には読者である地域の皆さんから”お願いされたこと”は前提条件をクリアしていれば、できる限り取材する、掲載する方針ではいる。ただし、マンパワーの限界もあり、取材に行けないことも多々ある。

→市民新聞の場合は、後で写真持ち込みで、載せてくれないかという相談も載ることはできる。なんでもとはいかないが。

- ・ 大変でもマメに、何かをやるときに FAX、電話で取材依頼をかけてもらう。
先ほども言ったように、マンパワーの限界で行けない場合も多々あるなど、タイミングだったりもあるので、一度取材に来なかった内容だからとあきらめず、ダメ元で発信し続けるのも一つ。

・ 基本的に市民新聞と長野日報は地域に対する公共性があれば、載ります。JCの時に、いかに信毎に載るか動きませんが、マメにプレスリリースすることと、公益性をアピールすること、一番は、記者と仲良くなることだと思います。社長や上司の「書け」、よりも担当記者の「書いてあげたい」のほうが、記者も人間なので、記事の内容もいいものになると思うので。
(全国紙、信毎はそうも行かない場合もあるので、上役へのプッシュが必要な場合も)

4. 「RCとは」の発信方法

- ・ロータリー(ライオンズもしかり)を、正しく理解していない人は少なくない。
→どう発信していくか。単純に、ロータリーはこういう団体です、よろしく。
という記事は書けない。

市民新聞は、記事内に代表者のひと言を入れることが多い。その時の内容に対してだけでなく、ロータリーはこういう団体だから、こういう事に力を入れているんだ。など、掲載されないかもしれないが、取材時には、ロータリーはこうなんだという発言を入れていく事がいいのでは。

LCVなどテレビの方が、コメントを切りにくい部分があるので、その効果はよりあるのではないかと思います。

さじ加減も大事で、記者は目の前のイベントに対するコメントが欲しいのが普通。言い過ぎは嫌がられることもあり得るので、注意は必要。そのあたりは難しいと思いますが。

- ・ダメ元でも、こういう事やるんだけど、記事にできる？という話を常に出していく。
こんないいことをやっているのに何で取材に来ないんだ！
では、なかなか進まない。こんないいことをやるから、取材に来て。
というスタンスが大事かと。

ニコニコボックス

薩摩 建 本日、大した話もできませんが、卓話がんばらせていただきます。
井上保子・牛山幸一・太田博久・大橋正明・笠原新太郎・北澤洋之介・北村正春・
小松正二・佐伯克己・佐藤有司・白鳥修次・杉田隆夫・瀬戸雅三・高木昭好・竹村
一幸・中嶋孝一・中畑隆一・中村文明・濱 毅・濱 俊弘・林広一郎・林 裕彦・
林 靖高・原 史郎・宮澤由己・守屋麻里・矢島 進・矢島 實・山岡正邦・山岸
邦太郎・山崎典夫 薩摩 健さん本日の卓話楽しみにしています。

出席報告

会員数45名、出席者34名、出席率82.93%、前々回訂正83.33%

2013~2014年度RIテーマ
ロータリーを實踐し
みんなに豊かな人生を

